

楽しく学ぼう屋久島のこと

# 屋久島学

# ソサエティ 2022 第10回大会

Society of Yakushimaology

参加無料

■日時：2022年12/3(土)・4(日) 9:00~17:30

屋久島学ソサエティは、住民と研究者が共に学びあい、多様な学問分野と島の現実を横断的に結んで知識と情報を共有し、地域社会のために具体的に活かしていくことを目指して2013年12月に設立されました。屋久島をもっと知りたい！学びたい！と思っている方なら、どなたでも参加いただけます。今年<sup>は</sup>設立10周年！大会は屋久島会場+オンラインで実施します。共に参加無料ですが、申し込みが必要です。皆さまのご参加をお待ちしています。

## <プログラム>

### <屋久島高校環境コース発表>12月3日(土)9:15~11:00

- 梅津青太郎「糞分析でヤクシマザルに迫る」
- 菅野凜太郎「SNSによる地域の魅力発信」
- 相良真姫「屋久島の漂着物でハンドメイドアクセサリー・雑貨作りをして教本を作成する」
- 寺本ひな乃「屋久島のフルーツからできる天然酵母について」
- 橋本心優「屋久島の中でおいしい水はどこにあるのか」
- 細川粹楽「屋久島で新しい発見をしたい」
- 前田明花「屋久島の自然が高校生に与える幸福度」
- 松崎安珠「地杉を使用し、楽器製作」

### <エクスカージョン>11月27日(日)

9:00~12:00

#### ■「世界遺産の森・西部地域を歩こう」

- ニホンザル・ニホンジカの観察
- ヤクタネゴヨウの自生地を訪ね周辺のマツ枯れ被害と対策の観察

■講師：半谷吾郎(京都大学) / 屋久島・ヤクタネゴヨウ調査隊

- 現地集合・現地解散
- 要申込 ■定員10名

### <会員による発表>12月3日11:10~11:55

- 半谷吾郎「特定非営利活動法人屋久島いきもの調査隊が発足しました」
- 渡邊彩音「ニホンザルの絶滅がヤマモモの分布パターンに及ぼす影響」
- 熊井勇介「屋久島と種子島におけるウナギ属魚類の種組成形成メカニズム」

### <会員による発表>12月4日10:10~11:40

- 金井賢一「ヤクシマエゾゼミ奮戦記」
- 栗原洋介「森のごちそう？西部林道でヤクシカ死体を食べる外来タヌキ」
- 揚妻-柳原芳美「ヤクシカはボトルネックを経験したか？」
- 本田剛章「山頂のシカとサルはササ原のどこを使うか？」
- 内藤アンネグレート素「屋久島・安房林道における鳥類相の垂直分布」
- 長谷川匡弘「屋久島高地で植物の送粉生態はどう変化しているのか」

古謡「まつばんだ」  
屋久の御嶽を おろかにゃ思うなよ  
金の蔵よりゃ なを宝な〜

歌い手募集中  
毎年ソサエティの開会に歌います  
あなたも一緒に歌いましょう  
44-2965 手塚まで



■ 主催：屋久島学ソサエティ

■ 共催：屋久島町/京都大学野生動物研究センター/国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所九州支所/公益財団法人屋久島環境文化財団/特定非営利活動法人屋久島いきもの調査隊

<問合せ> 屋久島学ソサエティ事務局

電子メール：[office@yakushimaology.org](mailto:office@yakushimaology.org)

〜お気軽にお問合せください〜

電話：0997-44-2965 (手塚田津子)

<テーマセッション 1> 12月3日(土) 13:30~17:00

## 「屋久島学ソサエティ設立 10 年を振り返り

### 更なる発展を語りあう」【屋久島研究講座】

コーディネータ: 湯本隆和 (京都大学)

「屋久島学ソサエティ」は 2013 年に産声を上げ今年 10 回目の大会を迎えます。地域の住民と、屋久島を研究のフィールドとする専門家との相互交流と理解を基に、新たな屋久島学を築こうとする地域学会です。屋久島が抱える課題の解決や多くの疑問に答え、地域全体の発展に貢献し、教育の場としての役割も果たすことを目的とする学びの場です。この 10 年間、多彩なテーマセッションが開催され、多くの研究成果が蓄積されてきました。今回はこの 10 年を検証します。屋久島学ソサエティの創設から関与された方から、新たに会員なった方まで、幅広い年代と分野からたくさんの参加者に発言いただき、来たる 10 年紀のソサエティ像を描きます。

### 第 1 部

- ・山極壽一「サルと歩いた屋久島をゴリラから見つめる」  
(総合地球環境学研究所)
- ・矢原徹一「屋久島の植物に魅せられて」  
(一社)九州オープンユニバーシティ)
- ・吉田茂二郎「ヤクスギ林分の長期動態の解明から  
: 現地調査資料と各種標本の重要性」  
(九州大学総合研究博物館)
- ・中川正二郎「屋久島学ソサエティでの地学、岳参り、  
屋久島高校研究発表を振り返る」  
(屋久島地学同好会)
- ・小原比呂志「地域人材をつなぐということ、育てる  
ということ」  
(一社)屋久島アカデミー)
- ・手塚賢至「ソサエティ 10 年の来し方、行く方」  
(屋久島照葉樹林ネットワーク)

第 2 部 「私と屋久島学ソサエティ」発表者: 12 名

第 3 部 参加者によるディスカッション

## ミニセッション 1「屋久島低地照葉樹林の種多様性と保全の現状」

12月3日 12:15~13:15

コーディネータ: 手塚賢至

屋久島の河川流域に残る林齢 150 年を超える原生的低地照葉樹林は植物多様性の宝庫であり、屋久島の貴重な森林生態系を保全する上で保護林等の指定は早急な課題です。「屋久島照葉樹林ネットワーク」は 2020 年に『高い種多様性を擁する屋久島低地照葉樹林の保全に関する要望書』を「日本生態学会」など四団体と共に「環境省」「林野庁」「鹿児島県」「屋久島町」に提出しました。この森とそこに生育する絶滅危惧種などのすばらしさを紹介し、保護の現状を報告します。

<テーマセッション 2> 12月4日(日) 13:30~17:00

## 「屋久島における健康ウェルネス研究の

### プレリュード(序章)」【屋久島研究講座】

コーディネータ: 杉下智彦 (屋久島尾之間診療所)

屋久島における森林の健康効果の研究成果が世界に紹介されたことより、「Shinrinyoku」という言葉は、世界の共通言語となっています。森林医学研究の発祥地のひとつである屋久島において、「森/自然」と「人/社会」との「健康/幸福」の関係性について、統合的な健康ウェルネス研究を進めていきたいと考えています。ストレスの多い現在社会における様々な健康ニーズに答えるため、また高齢化社会の進む離島における新しい健康圏モデルの構築において、学際的な研究成果を世界に発信していく端緒として、今回のテーマセッションを企画しました。

### 基調講演「森林医学の魅力と可能性」

今井通子 (医師、登山家、国際森林医学会)

### 第 1 部「森林医学の成果と展望」

1. 李 卿「森林医学の成果」(日本医科大学)
2. 落合博子「森林医学の最新動向」  
(国立病院機構東京医療センター)
3. 杉下真絹子「屋久島における森林浴の展望」  
(カレイドスコープ)
4. コメンテータ: 高山範理 (森林総合研究所)

### 第 2 部 屋久島における新しい健康モデルの構築

1. 小橋友理江「地域医療の限界を超える為に～終末期医療の視点から～」(福島県立医大大学院)
2. 淀みゆき「自宅で最期を迎えられる島の医療福祉の体制づくり」(隠岐島海士診療所)
3. 杉下智彦「屋久島健康圏構想」屋久島尾之間診療所)
4. コメンテータ: 藤村憲治 (元屋久島栗生診療所)

### 第 3 部 発表者全員によるパネルトーク

## ミニセッション 2「屋久島におけるマツ枯れ対策～マツ枯れ<sup>ゼロ</sup>の世界自然遺産の島を目指して」

12月4日 12:00~13:20

コーディネータ: 金谷整一 (森林総合研究所)

絶滅危惧種ヤクタネゴヨウ、南限のマツ属樹種アカマツおよびクロマツの保全を目指すため、現在脅威となっている外来のマツ材線虫病対策について、10 年以上にわたって民・官・学が協働で取り組んできた活動を紹介します。そして将来的に「マツ枯れ<sup>ゼロ</sup>の世界自然遺産の島」を達成するための機運をさらに深化させていくことを目指します。

屋久島学ソサエティ 検索

※オンライン参加申し込み〆切は 12月2日正午 屋久島学ソサエティホームページからお願いします

詳細なタイムスケジュールは、ホームページをご覧ください <http://yakushimaology.org/>

屋久島学ソサエティフェイスブックでも情報発信しています <https://www.facebook.com/yakushimaology/>